

平成22年度
キャリア教育実践セミナー
まとめ

- ① 校種別協議 <P1~P3>
小学校 中学校 高等学校
- ② パネルディスカッション <P4~P5>
②-1 西部 ②-2 東部
- ③ グループ協議 <P6>
- ④ アンケート <P7~P8>

① 校種別協議

【小学校（小学部）】

○ 全体を通して

- ・特別なことを実施するのではなく、従来の活動をキャリア教育の視点で見直し、実施している。
- ・各教科とキャリア教育との関連付けを図り、全教育活動でキャリア教育を実践している。日常の授業との関連を深化させることが大切である。
- ・教職員が共通理解する場が大切である。研修の中に取り入れていくとともに、全校で取り組む活動を企画、実践することも一つの方策である。（例、職場体験学習、全校参観日など）

○ 各学校における具体的な活動例

- ・自らの生き方を考える活動
「10歳の成人式」、「1／2成人式」、総合的な学習「将来を考える」
「自分がしたいこと、できること」をテーマとした作品づくり など
- ・職業観や勤労観を育む活動
中学年社会科での地域へ出たり、働く人とふれあったりする学習
ものづくりや栽培などの体験活動（例、農作業や竹細工などの体験活動など）
エコ活動（環境問題との関連づけを図った活動）や地域の清掃活動
福祉体験活動としての高齢者施設等の訪問、職場体験学習の実施
委員会活動や係活動の強化（1人1係を与えることによる責任の自覚）など
- ・小中連携の推進
小中合同のキャリア教育研修。参観日も小中合同で実施。
中学校の職場体験学習との連携（小学生による発表会の参観など）。
- ・家庭・地域との連携
キャリア教育参観日、学校支援ボランティアや地域ボランティアの積極的活用。
- ・地域との交流（梨作りの体験、牛を育てる農家との交流、萩焼体験、もちつき大会、稲作、地域ボランティア、ホテルを生かした町作り、岩国寿司作り、ブルーベリー園での活動、菓子工房との交流、学習ボランティアとの交流など）
- ・学校OB（「ようこそ先輩」）、地元の起業家、ハローワークの方、海外青年協力隊等のボランティアの方などゲストティーチャーを招いての講話

○ 課題・今後に向けて

- ・総合的な学習の時間の授業時数減への対応が必要である。
- ・キャリア教育の4領域8能力の見直しへの対応が必要である。
- ・各学校の実態に合わせて目標を設定し、教員がきちんと視点をもって指導することが大切である。
- ・体験活動を一過性のものとして終わらせるのではなく、事前事後指導を工夫して、関心を持続させることが大切である。
- ・子どもたちの主体的な活動にすることが大切である。（教員は裏で動いて、子どもたちに自分で取り組んだと意識させることが肝要）

【中学校（中学部）】

○ 全体を通して

- ・全教職員が共通理解のもと、これまでの教育活動をキャリア教育の視点から見直して進めている。
- ・推進委員会を設置し、全体計画を作成し、実践している。学年や分掌ごとに反省・評価を実施している。

○ 各学校における具体的な活動例

- ・1年 職業調べ（13歳のハローワーク）・職業講話、身近な人へのインタビュー、将来の希望、自分を知る活動、人間関係を育む宿泊体験学習など
- ・2年 職場体験学習、キャリアコーディネーターや各業種の社会人による職業講話、職場体験学習発表会、立志式、グループの絆を深めるフレンドシップセミナーなど
- ・3年 将来設計の学習（ライフプラン作り）、高校説明会（進学説明会）、面接指導、キャリアカウンセリング、面接指導、海外語学研修、大学訪問など
- ・校種間連携の推進
小中連携による相互見学やクリーン作戦の実施。小4を招待しての職場体験発表会。高校教員による出前授業、面接作法指導、キャリアカウンセリングなど地域の高校と連携してのキャリア教育への取組。
- ・家庭や地域との連携
保護者や地域の事業所の方等による講話やマナー指導。地域の図書館との連携。
- ・その他 高校3年生による講話や生き方講演会の開催など
- ・進路指導副読本の「中学生生活と進路」を活用した継続的・系統的な学習
- ・委員会活動におけるキャリア教育への取組
- ・ボランティア活動への取組（清掃活動、ペットボトルキャップ回収など）

○ 課題・今後に向けて

- ・全教職員が共通理解した上でキャリア教育を推進する必要がある。
- ・職場体験学習を受け入れてもらえる事業所が少ない。（特に大規模校での事業所確保が困難である。製造業等では、危険なことを理由として断られることがある。）
- ・一つ一つの取組が個々に終結してしまい、つながっていない感がある。（職場体験学習が一過性のイベントとして終わっている。）
- ・職場体験受け入れ事業所について、行政面での協力を得ることができないか。
- ・地域に貢献するために自分は何ができるのかなど、社会の一員としての自覚を持たせる活動を行うことが必要である。
- ・「人の話を聞く」などの人としての資質を育むことが大切であり、生徒指導との連携が不可欠である。
- ・子どもたちに大人の仕事（社会）が見えない世の中になっているのではないか。だからこそキャリア教育への取組が大切である。

【高等学校（高等部）】

○ 全体を通して

- ・キャリア教育の推進方法は、進路部がイニシアティブをとり、学校全体で取り組んでいる学校が多い。

○ 各学校における具体的な活動例

- ・「産業社会と人間」（必修：2単位）におけるライフプランの作成
就職を希望する生徒全員を対象したキャリアカウンセリングの実施。生徒は面談内容を「キャリアシート」に記入し記録として保存
- ・1年生は、「自己について考える」（学年主導）、2年生は、「インターンシップ」（教科主導、家政・産業）、3年生は、「課題研究」を実施
- ・生徒主体で実施。水曜6・7限を総合的な学習の時間、LHRにあて、キャリア教育にうまく活用。ボランティアに積極的な生徒が多く、そのことも将来を考えることにつながっている。
- ・インターンシップの実施
 - 1年生全員が行い、キャリア教育推進委員会によって実施
 - 2年次に3日間実施。終了後に、まずクラス内で発表会を行い、その後、近隣の学校と3校合同で全体発表会を行う
 - 系統的に実施し、3年生が自分のインターンシップでの活動を下級生に発表する機会を設定
 - 実施先は、商工会議所、商工会、ハローワーク、経営者協会、やまぐち教育応援団を活用
 - 事前の打ち合わせは生徒本人が実施
- ・「ハウレンソウ」や時間厳守、ノルマなどについて学習。小中高一貫で実施（特別支援学校）
- ・ハローワークの方の講演やパネルディスカッションなどを実施
- ・毎年卒業生を6名招いて行う、「ようこそ先輩」を継続して実施
- ・キャリアファイル（3年間分）にキャリアに関する情報をポートフォリオ形式で保存

○ 課題・今後に向けて

- ・生徒のコミュニケーション能力の向上が課題である。
- ・インターンシップ等の取組を継続的に生かすための工夫が必要である。
- ・ジョブシャドウイングや職業人インタビューなどの手法も用いて普通科におけるキャリア教育を考えていく必要がある。
- ・キャリア教育に関する取組はやっているが、教員全体としての意識の向上がまだ不十分である。
- ・保護者にとっては、「キャリア教育」や「インターンシップ」などは新しい言葉であり、なかなか具体的な内容がイメージしにくいようである。

②-1 パネルディスカッション（西部）

- テーマ 「学校と家庭・地域・産業界等との連携協力に向けて」
- コーディネーター 有識者
- パネリスト 産業界関係者 2名
P T A関係者 1名
学校関係者 1名

○ 各パネリストから

<産業界関係者>

大学生に比べて高校生は、自ら就職活動をするというよりも、学校から斡旋された仕事に就いていると感じる。大学生は就職活動を通して多くのことを学び、また挫折も経験する。その経験が社会人になった時にいろんなところで役立っている。就職を希望する高校生は、今以上に自らの意思で自ら就職活動をすることが大切であり、進路を考える前に、職場体験や業界研究の機会を与えることが大事である。また、企業が社会の一員としてこのような活動に参加することは、個別の採用の有無に関係なく重要な使命である。

<産業界関係者>

学校は「横」のつながりを教えるところであれば、職場は「縦」のつながりを教えるところである。そのために、あいさつ、敬語、礼儀を大切にしたい。また、地域社会で子どもを育てるという視点が大切である。それによって、家庭の教育力を補うことが可能となる。家庭、学校、校区内地域社会のそれぞれの立場で、地域内の子どもに関心を持ち、ときには厳しく育てることが大切である。

<P T A関係者>

親の立場から、社会情勢等を勘案して将来の職業について、子どもと一緒に考えることを推進したい。夢の実現へのプロセスの一部を学校環境で学ぶ機会が増えることはありがたいが、親が現実社会において様々な事業に取り組む大人の一人として、子どもの夢や志のもち方や職業観を一緒に考え、育むことに積極的に取り組む必要がある。各家庭で、子どもと1対1で話す環境をつくとともに、学校でのキャリア教育関連の授業に親も参加するなど、学校の先生任せにせず親自身が取り組む環境をつくり出せるとよいと考える。

<学校関係者>

まわりの人とのつながりを強化して、職場体験学習の効果を高めることに取り組んでいる。具体的な手立てとして、「親から学ぶ～オリジナルな進路学習参考書の作成～」、「学校・保護者による職場体験学習受け入れ先の開拓」などを実施している。今後も、保護者や事業所との連携を密にして、効果的な職場体験学習をめざすとともに、小・中・高等学校の連携を図り、自分のあり方、生き方についての「学び」の履歴を子ども自身が大切に蓄積していく活動などに取り組んでいきたい。

○ まとめ

それぞれの立場で、子どもたちを育てるという論点で取り組んではいるものの、うまく噛み合っていない現状があるのではないかと。そのような現状を解きほぐすために、本日のような協議・議論の場をいくつも作っていくことが肝要である。子どもたちのことを中心に考え、保護者や地域、学校の教員も入り議論する場が、キャリア教育を進める連携の要となる。

②-2 パネルディスカッション（東部）

- テーマ 「学校と家庭・地域・産業界等との連携協力に向けて」
- コーディネーター 有識者
- パネリスト 産業界関係者 2名
P T A関係者 1名
学校関係者 1名

○ 各パネリストから

<産業界関係者>

大学生に比べて高校生は、自ら就職活動をするというよりも、学校から斡旋された仕事に就いていると感じる。大学生は就職活動を通して多くのことを学び、また挫折も経験する。その経験が社会人になった時にいろんなところで役立っている。就職を希望する高校生は、今以上に自らの意思で自ら就職活動をすることが大切であり、進路を考える前に、職場体験や業界研究の機会を与えることが大事である。また、企業が社会の一員としてこのような活動に参加することは、個別の採用の有無に関係なく重要な使命である。

<産業界関係者>

資本主義社会においては、企業が国民生活・日本の繁栄を支えている。その企業にとって必要な「人材」には、「教育」の「教」の部分、すなわち学力や体力をつけるだけではなく、「育」の部分、すなわち生き方を考えることが大切であり、それがキャリア教育だと考える。また、地域社会を巻き込むために「コミュニティスクール」に期待したい。

<P T A関係者>

学校では、キャリア教育についてどのようなことを教えているのかを、家庭に伝えることが大切であり、家庭では、保護者等の職業観や仕事の内容などを子どもに知らせることが大切である。学校と保護者の関係を密にし、お互いの情報を共有する必要がある。そして、学校で地域のことを子どもたちに教える。地域との繋がりが密であれば、子どもたちも安心できる。そのためには保護者が率先して地域の行事等に参加することが必要である。

<学校関係者>

生徒を取り巻く社会は急激に変化している。このような社会情勢の中で、自己の将来の在り方や生き方に不安を感じている生徒や、進路選択に明確な希望や目標を持たず学習に主体的に取り組めない生徒が増加している。普通科の高等学校では、望ましい勤労観・職業観を育成し、自己の将来の目標を明確に持ち進路実現に向けて自主的主体的に取り組むことのできる生徒を育成することが大切である。

○ まとめ

近年、「キャリア教育」という言葉が学校に入ってきたものの、まだまだ発展途上である。よりよいものにしていくために、大いに知恵を絞る必要があり、学校の教員だけではなく、保護者や産業界の方々の参画を得て、また、小・中・高等学校・大学という学校種別を越えて取り組むことが大切である。よりよいキャリア教育をこの山口県から発信していきたい。

③ グループ協議

【学校】

- ・いろいろな業種の方の話が聞けた。キャリア教育推進の背景を知り、キャリア教育の必要性を痛感した。小学校での基盤の形成のために、委員会活動、係活動、当番活動などが大切である。
- ・仕事をしている人の姿や様々な大人の生き方、さらには、地元の良さを見せていくことが必要である。
- ・授業の中で、キャリア教育の視点を入れることが大切である。当たり前前前のことが当たり前前にできる子どもに育てる。基本的なことを学校教育で身に付けさせる。自分の考えを述べる、聞く、かみ合わせる力（コミュニケーション力）をつけることが肝要である。
- ・インターンシップを実施している。進学校で約200人、22事業所で実施した。高校と職業の間に大学があることを意識して行った。今後の進路決定にどう生かすかが課題である。
- ・特別支援学校なので、小中高一貫での教育ができる。卒業後のケアもできる。小学部では、体験を重視して好きなことからできることを見つけていく、ひろげていく取組をしている。

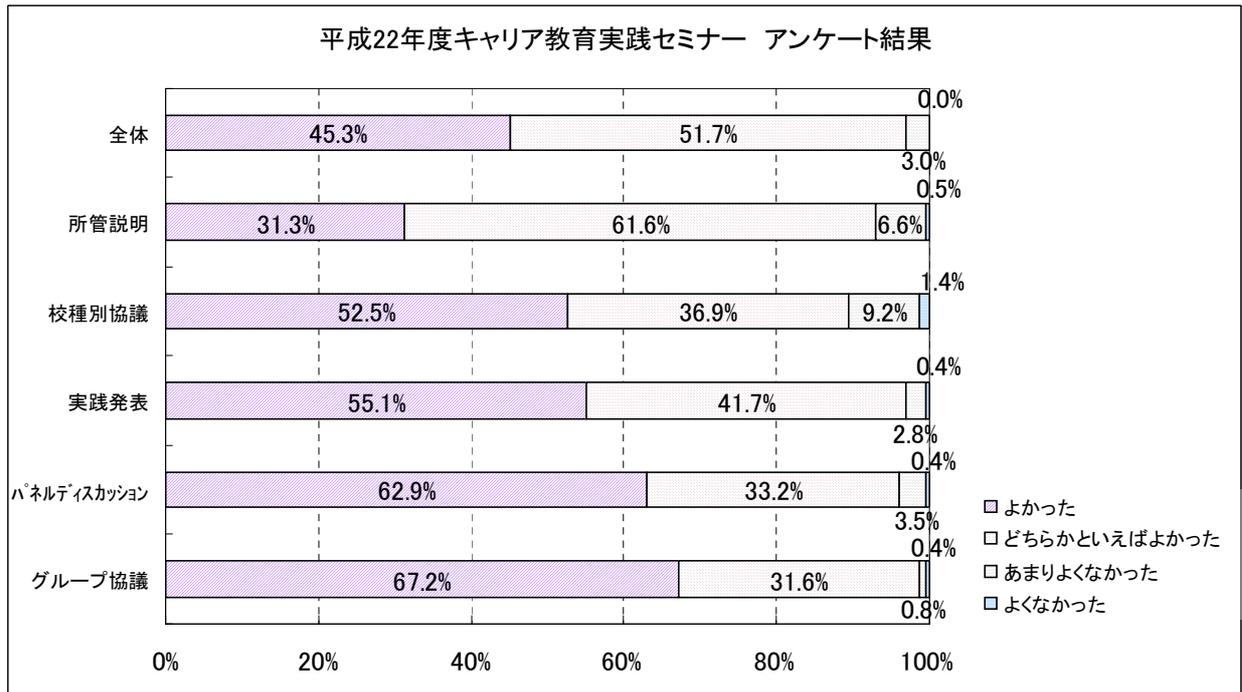
【保護者】

- ・夢イコール仕事、職業につくことではない、ということに共感した。子どもたちにあらゆる経験を積ませてやるのがキャリア教育なのではないか。機会あるごとに、地域の人と触れ合わせるようにしている。
- ・なりたい職業に就いて、一生懸命取り組める子どもを育てたい。
- ・学校の先生がいろいろ考えておられることに驚いた。あいさつや手伝いなど家庭できちんとさせていかないと将来が不安だと思った。

【産業界】

- ・学校を出て、社会人になってどう取り組んでいくか。今、社会全体が大人も子どもも夢がない。自分が何をしたいという夢を家に帰っても話もできない。小学校の5、6年生ぐらいまでは、夢をもつが、学年が上がるごとに夢をもたなくなる。夢をもつことを考える場所を設定する必要がある。
- ・子どもたちは、社会の財産として、協力していきたい。キャリア教育は、もっと普及させていく必要があると思う。親と切り離して過ごさせる（夏休み等）体験が必要ではないか。
- ・大人は、楽しく生き生きと仕事をするのが大切。苦しいなと思うことでも「楽しい」にしていく。
- ・職場体験活動をせっかくやってもどうなのだろうかという場合もある。学校側も目的をしっかりとって実施する必要があると思う。時と場に応じた節度のある行動や、相手の目を見て話せるなどの基本的な生活態度が大切である。
- ・生徒の要望になるべく応えるために、商工会のネットワークを活用できる。提供してほしい情報を明確にして、しっかり活用してほしい。

④ アンケート



1 全体的なこと

- ・日々の教育活動がキャリア教育につながるという意識をもってこれから子どもの前に立ちたいと思った。授業の中でキャリア教育をしていくためにも、もっともっと授業改善をしていかないといけないと思った。(小学校)
- ・今回の研修を通して、本校における課題や不足していることがよくわかってよかった。まずはキャリア教育の共通理解と、育てたい児童像を明確にすることが必要であると感じた。特に本校の児童の実態に則して力を入れるところを共通理解したい。(小学校)
- ・パネルディスカッションが家庭教育の話になった。これは話がそれたのではなく、キャリア教育推進の上で基盤となる家庭との連携は重要なポイントであり、「生き方」指導を考えていく際の当然の流れかと思う。社会教育・文化財課とも連携の上、キャリア教育を進めていけるとよいのではないかな。(中学校)
- ・進路指導＝キャリア教育 言葉、本来の目的、内容が理解されていないように感じた。これをきっかけに変わっていくことを望む。(高等学校)
- ・各学校で、いろいろなキャリア教育の取組をされていることが分かりよかった。学校側は一生懸命されているのでもっともっと協力しなければと反省した。先生任せにせず、自分の子どもに責任をもち、子どもを知る（話すことができる）ことが大切だと思った。(保護者)
- ・キャリア教育というと「進路学習、働くとは」、というイメージがあったが、どう生きていくのかという幅広いものであるという認識がもてた。(保護者)
- ・「夢」とは職業だけではない。何をなすべきか考える。そのための手段として職業の位置付けが大事。「公」を意識する社会人を学校、家庭、職場で育てよう！（産業界）

2 所管説明について

- ・口頭での説明にもたくさんの大切な言葉があり、メモしきれなかった。画面の文字が多くなってもいいから、言葉を足して欲しい。内容はすばらしかった。(小学校)

3 校種別協議について

- ・実践例を持ち寄り、その成果・課題についてみんなで考えることが今後のキャリア教育に直接つながっていくと思う。(小学校)
- ・小学校のみでは、まだ・・・のオンパレードで深まらなかった。(小学校)
- ・各学校の取組について知ることができてよかった。今後、特別支援学校でもキャリア教育について計画的に実践していく必要があると感じた。(特別支援学校)

4 実践発表について

- ・小・中・高にふさわしい実践や変わらない同一のめざすことが分かった。(小学校)
- ・キャリア教育の実践発表が校種ごとにあつたのはよいと思った。小・中で行われている内容がみえたのも参考になったが、小・中・高とのつながりを思わせる内容、長期的なキャリア教育がどうつながっていくのかが例をあげてみせていただけると更によかった。(高等学校)

5 パネルディスカッションについて

- ・教師以外の立場の人の話が聞けて、目から鱗のことが多々あった。(小学校)
- ・それぞれのパネリストの方が意見を述べるだけだったので、もう少し、議論が行われればよかった。(高等学校)
- ・企業の求める人材、職場体験学習で学校に望むことなどの話も聞けてよかった。様々な立場での貴重な意見が聞けよかった。(保護者)

6 グループ協議について

- ・小・中・高それぞれの取組を知ることができてよかったと思った。あいさつ、マナーに始まり、学ぶ意欲を生徒たちにもたせるよう、就業体験などだけでなく、普段の授業から取り組んでいくことが重要だと感じた。(高等学校)

7 その他

- ・昨年度も参加したが、大変有意義な研修会であった。校種別協議に加え、実践発表、パネルディスカッションと昨年度よりもさらに充実した内容であった。(小学校)
- ・異校種やPTA、産業界の方々からのご意見を聞くことができて、大変参考になった。このような会を担当者だけでなく、他の先生方にも参加していただき、キャリア教育についてのこれからの指導や進め方を共通理解できるとよい。(中学校)
- ・キャリア教育は教育活動全体を通じて行われるものということであるが、各教科での具体的な実践事例についても知りたいと思った。(高等学校)
- ・キャリア教育は子どもたちの将来のためというのであれば、学校、家庭、地域がしっかりかかわることが大切だと感じた。(保護者)